

令和5年度 第5回小樽市新総合体育館整備検討委員会 議事録

開催日時：令和5年10月19日（木）15:00～16:30

開催場所：小樽市教育委員会第1会議室

出席状況 ○委員・・・6名

中川委員長、幸谷副委員長、齋藤委員、吉田委員、奥山委員、堀口委員

○教育委員会・・・9名

林教育長、鈴木部長、野呂次長、近藤主幹、真鍋主幹、永井課長、久保田主査、
荒谷主査、浪岡主任

○株式会社建設技術研究所（委託業者）・・・4名

1. 開会

- ・ 【事務局】全11名の委員中6名が出席しており、小樽市新総合体育館整備検討委員会の設置及び運営に関する要綱、第5条第2項により、委員会が成立していることを報告する。

2. 議事

(1) 施設計画について

- ・ 【事務局】資料1「施設計画について」説明
＜省エネ・再エネ設備について＞
- ・ 【委員】ZEBの考え方について、省エネ設備はコージェネレーションシステムの方が向いているとされているが、浦安市の事例と比較すると規模が小さいと思われる。
浦安市は350kw1台、本事業は25kw2台であるが、効果の差はどの程度か。
→【事務局】発電容量が大きくなるとエネルギー削減率は上がるが、それに伴いコストも高くなる。今回のシミュレーションでは、削減率とコストのバランスを見て設定した。
→【委員】施設の規模の違いによるものか？これでは、ZEB Oriented(ゼブオリエンテッド)のエネルギー削減率30%には届かないのではないか。
→【事務局】コージェネレーションシステムだけでなく、施設の断熱等と組み合わせて達成させる。実際のシミュレーションは設計段階になる。
- ・ 【委員】イニシャルコストは、補助金等でカバーできるイメージがあるが、ランニングコストについてはすべて市の持ち出しとなると思われるため、その点も考慮して検討して欲しい。また、災害ボランティアセンターとすることを検討しているとのことなので、防災の観点にも主眼を置いていただきたい。
- ・ 【委員長】省エネルギーと再生可能エネルギーの両方を導入するということか。
→【事務局】再生可能エネルギーは小樽市の計画上、何らかの設備を導入することとしている。一方で、ZEBでは再生可能エネルギーは評価されないため、省エネルギーの導入を優先して検討していかなければならない。
- ・ 【委員長】本日の意見をもとに、事務局の案で検討を進めることでよいか。
→【委員一同】異議なし。

(2) 事業計画について

- ・ 【事務局】資料2「事業計画について」説明
＜概算事業費の想定と想定事業スケジュールについて＞

- ・ 【委員】 従来手法とは、これまで実施してきた方法であると思う。PPP／PFI手法は、事業者の選定には時間を要するが、事業者決定後は、事業者がある程度主体的に動いて進めていくということか。そのことにより、従来手法とほぼ変わらないスケジュールとなるという理解でよいか。
 - 【事務局】 お見込みのとおり。
 - 【委員】 供用開始を待っている方もおられると思うので、スムーズに進めて欲しい。
- ・ 【委員】 本体建設費については、6.75%（4億4千万円程度）上がるとのことであるが、まずは、ZEB Orientedの削減率30%を達成できるよう計画を進めていただきたい。
 - 【事務局】 ZEBを導入した場合は、竣工後もその効果を検証し国へ提出していくこととなる。
 - 【委員】 効果が認められなかった場合の案も検討しているのか。
 - 【事務局】 エネルギーを削減するとの約束のもとに補助金が交付されるものであるため、必ず削減可能な計画とする。
- ・ 【委員】 スケジュールについて、手法によって工期がずれるとのことであるが、事業費にも差が出るのか。
 - 【事務局】 PPP／PFI手法導入の目的の一つとして事業費の低減が挙げられる。設計・建設・維持管理・運営を一括して発注し、民間ノウハウを導入することにより、現在の想定では事業費が数パーセント下がることとなる。また、予算獲得・入札等に係る職員の負担軽減の効果もある。PPP／PFI手法では、事業者が決定するとスムーズに事業が進んでいくこととなる。
 - 【委員】 柔軟に対応できることが民間活用の良いところであると思われる。
- ・ 【委員長】 本日の意見をもとに、事務局の案で検討を進めることでよいか。
 - 【委員一同】 異議なし。

3. その他

- ・ 【事務局】 「第6回委員会」は、11月29日（水）14時00分より、小樽市教育委員会第1会議室にて開催予定

4. 閉会